草津東　町内だより　（令和五年）2023/ 9/1　第480号

この人を訪ねて＃227

往年の企業戦士は 世のため人のために活躍中

草津地区民生・児童委員協議会 会長 坂井 進（さかい すすむ）さん 78歳

熊本市出身。「365歩のマーチ」で一世を沸かした、水前寺清子は幼少時の同級生。松下電器産業株（現パナソニック広島営業所に勤務中、広島市の交通信号をコンピュータ制御にするシステムの設施、普及に尽力した。いまは終の住地（家）と決めた広島で、より健全で暮らしやすい地域づくりに努めている。

「ひょんなことから民生・児童委員（以下民児委員）を引き受けてしまいました」と坂井進さんは開口一番笑いながら話し出した。

「3年前、私が住んでいる広島市西区庚午南町内会の総務をお世話していたとき、元町内会長から、ちょっと手伝ってくれないかといわれ、何もわからず同地区の民児委員を引き受けてしまいました。昨年12月これまた後先考えずに、草津地区民生・児童委員協議会の大迫前会長の〝甘言〟によって、会長職まで引き受けてしまいました（笑）」。

会議の多さにびっくり

「なんの知識もなく引き受けたものの、この〝会長職〟は、いろいろな組織とつながっており、小学校、中学校をはじめ、社会福祉関連も含め、△△運営委員会などの名称のもとに、数多くの会議へ出席を要請されます。取り残されないように走りながら勉強していますが、引き受け、やるからには少しでもお役に立てればと考えて、やっております」と決意を話した。

「肥後もっこす」とは　有名人が続々

熊本生まれの坂井さんは、俗にいう「肥後もっこす」である。これは熊本県人の気質を表現したもので、文献によれば正義感が強く、一度決めたら頑固で梃子でもうごかない男性的な性質を指す言葉だ。おおらかで明るい半面、不器用なところがあり、一度信頼を築くと決して裏切らず、神経がこまやかで心配りができる九州男子の鑑でもある。カープの監督だった古葉竹識、巨人監督だった川上哲治、元カープ選手の前田智徳、芸能人では、現在活躍中で高校の後輩にあたる漫才くりぃむしちゅーの上田信也、有田哲平などを観ればその気質がよくわかる。

終戦の年、1945年（昭和45年、熊本市で生まれた坂井さんは、市内の幼稚園、小中学校をから、熊本県立済々黌高等学校を経て、国立大分大学経済学部を1970年に卒業、松下電器産業（現パナソニックに就職した。

チーターこと水前寺清子と同級生

幼稚園、小学校では、あの国民的歌手の水前寺清子と同級生だった。彼女の本名は林田民子といい、美空ひばりなどの歌を学芸会などで上手に歌っていたそうだ。小さい少女だったから、あだ名が「チビタミコ」と呼ばれていて、有名になってからの愛称が「チーター」になったと坂井さん当時を思い出して話す。しかし彼女の一家は小学4年生のとき東京に引っ越した。また1970年3月に発生した「よどhiハイジャック事件」の犯人9名の内、岡本武（京大中退）は小学校の同級生だった。高校では、前述の赤ヘル軍団をセリーグ初優勝に導いた故古葉監督が大先輩にいる。

大阪万博のとき入社、広島勤務へ

坂井さんが松下電器産業（株本社大阪）入社した1970年（昭和45年3月から、大阪万博が開かれ、同郷の同級生たちがが、坂井さんの寮に泊まりに押しかけてきていた。6ケ月の研修をおえ、10月に初配属先が、広島営業所だった。

広島のコンピュータ制御交通信号を受注

職種は官公庁相手の営業職。この頃どの都市の交通信号機も、交差点ごとに個別に作動していた。東京警視庁をはじめ名古屋、大阪などの県警が、コンピュータ制御の交通信号機に切り替えていたときだった。

新人で他に営業に行くところがない坂井さんは、この〝案件〟をもって、毎日、県警の担当部署に顔をだしていた。「最初は相手にされませんでしたが、犬も三日飼えばなつくように、机の周りをちょろちょろするものですから（大笑）、一緒に飲みにいくまで親しくなり、遅くなれば、警察の寮にまで泊まらせてもらい、ついに信号機システムを受注することが出来ました」。

原子力発電に使用するシステムも受注

この時の同業ライバル会社は3社あり、いずれも大阪からの出張で、坂井さんには地の利があったことも幸いだった。松下電器産業と言えば、電球と冷蔵庫などが頭に浮かぶが、坂井さんが後日売り込んだ中国電力の島根原発、九州電力玄海発電のシステムなども手掛けているのには驚きだ。もっとも坂井さんはコンピュータにはそんなに詳しくなく、営業受注が仕事であり、受注後はシステムエンジニアなどの出番となる。

終（ついの住地（家）を広島に

4年後、坂井さんは故郷の熊本へ、3年後大分、91年に博多・九州支店から9年後大阪・東京本社へ転勤、2004年（平成16年）60才で定年した。

これだけの〝営業能力〟がある人物をほっとく人はいない。熊本の友人の紹介で、九州電気工事（株）中国支社（広島市）に再就職。3年後、前会社の先輩から電話があり、名古屋が本社の電気工事会社が松江支店を開設する手伝いをしてほしいと依頼を受けた。毎週高速バスで通い、昨年3月まで支店長として勤めた。

各地を転勤で過ごしたうち、異郷の地とはいえ、住みやすく、「酒が美味く、美人が多い（大笑）そこ都会的な広島を」と坂井さんは終の住地（家）に選んだ。妻由恵さんは広島出身ながら、福岡がいいと言っていたが…。

民生委員・児童委員とは（東京都民児委員連合会発行参照）

略称は民生児童委員（以下民児委員）。★民生委員法に基づき、市町村ごとの推薦・選考のうえ、厚生労働大臣から委嘱された「非常勤の地方公務委員である。給与の支給はなく（無報酬）でボランティアとして活動（任期3年、再任可）する。民生委員は児童福祉法に定める児童委員を兼ねる。★民児委員は、地域住民の一員として、担当地域の住民の生活上の色々な相談に応じ、行政、専門支援機関、団体への「つなぎ役」としての役割がある。★1917年（大正6年）「防貧」事業、個人社会の向上を目的に、岡山県で誕生した済世顧問制度から始まり、百数年の歴史がある。その後幾多の変遷を経て、最近では核家族化、地域のつながりの希薄化が問題視され、高齢者や障がい者世帯の見守りや安否確認や居宅寝たきり老人問題等に対し、訪問や声掛け等を通じて関係機関へニーズを伝えることにシフトしている。★全国で23万人が活動しているが、なり手が激減している。交通費等活動費は支給されるが、基本的には無給である。この制度そのものにも問題があるとおもわれ、人と関わりたくないという風潮も大いに関係している。

人脈の広さにはビックリ

まだ民児委員、会長として経験が浅い坂井さんだが、今まで述べたような企業体験、その人柄、何か人様のお役に立ちたいと思われる話からすると、きっと諸問題の解決に向かって推し進められることでしょう。

広島の熊本県人会副会長、「漱石と広島」の会の世話人などその人脈の広さには驚かされる。

座右の銘？はATMだそうだ。A：明るく、T：愉しく、M：前向きに。さすが歴戦の企業営業戦士の銘だ。最近公民館活動で俳句を始めたそうだ。口の悪い知人いわく、「はいかい老人」ではと。とんでもない！

（編集　倉田和峰）

坂井　進
（さかい　すすむ）

広島市西区庚午南一丁目在住
1945/6 熊本市生まれ 78才　熊本県立済々黌高等学校、国立大分大学経済学部' 70年卒、同年松下電器産業(株)に入社、'04年定年退職。九電工(株)中国支社、大岳電工松江支店長。'19年草津地区民児委員、'22/12 同協議会会長就任。家族：妻、二男子　孫4人

熊本・碩台幼稚園で。左円：坂井さん、右円：水前寺清子さんの幼い頃
チビタミコの「ススムちゃんの〝お嫁さん〟になると言った約束は…」

22/12民児協会長に就任。中央口内：松井市長、
左円：坂井さん、右円：大迫前会長

二人の子息と共に

左円：来広の古葉元監督と

来広の熊本市長を囲む
熊本・広島県人会

信号機受注。広島県警
管制室にて。若かった！